Asada

環境を守る**親切ツール**

高圧洗浄機 13/150G

取扱説明書

[ご使用前には必ず本書をお読みください。]

IM1502

ー目次—

安全に使用していただくために……1.2.3.4.5

各部の名称……6

仕様……7

運転準備……8

運転方法……9

噴射ガンの操作方法……10

使用後の取り扱い……10

保守・点検について……11

定期点検項……12

トラブル解消法……13

わからない事や、故障したら……13

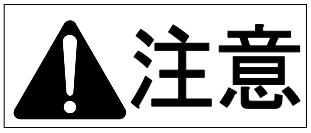
安全に使用していただくために

本製品は、本書に記載した使用方法に従ってお使いいただく限り、お客様には十分満足いただけるものと信じております。
本書に従わなかった場合、重大な事故の原因になります。

本書中、および本製品に貼付した警告表示で使用している安全標識とその意味はつぎのとおりです。

誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いものを示す内容です。

誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



誤った取扱いをした時に、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容です。

●本書中で

が付いた記載事項は、取扱い上特に重要な注意事項です。
注意を怠った場合には、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いので必ずお守りください。

●なお、

に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので　必ず守って下さい。

当社は、あらゆる環境下における運転・点検・整備のすべての危険を予測することはできません。
したがって、本書や当製品に明記されている警告は、安全のすべてを網羅したものでは、ありません。
本書に書かれていない運転・点検・整備を行った場合、安全に対する配慮が必要です。
取扱店とよくご相談ください。

⚠危険

- 本機は非常に高い圧力水を発生しますので絶対に人、動物、自分の身体に向けて噴射しないでください。この洗浄機は業務用です。すべての危険、警告、注意事項をご確認の上、ご使用ください。
- 高圧水により、人体が負傷した場合、思わぬ事態になっている事が有りますので、早急に医学的処置を必ず行ってください。
- 噴射ガンを噴射する時に高圧水による反動が有りますので両手でしっかりとガンおよびランスを握ってください。
- 高所で作業する場合、足場をしっかりと固定して落下防止対策を行い、安全に作業してください。
- 本機は水平な場所に設置し、動き出さないような措置をしてください。床面のしっかりした場所で、建物や、設備から１m以上離して使用してください。
- 本機のまわりに引火物を置かないで下さい。また、引火物が充満するような場所で使用しないでください。
- 降雨や雷鳴時は屋外での作業には使用しないでください。感電や落雷の危険があります。
- 本機を使用中、異常を感じたら直ちに機械の使用を中止してください。
- 本機に水や油などがかからないようにしてください。かかった時は乾いた布でよく拭き、十分に乾燥させてください。
- 回転部分のカバー類を取り外したまま絶対に使用しないでください。
- 運転中は回転部分に絶対に近づかないようにしてください。冷却ファン、ベルト、プーリーなどの回転部分に手や身体、衣服などが巻込まれて、けがをするおそれがあります。
- 本機は指定の個所で吊り上げて下さい。指定以外の個所で吊ると本機の落下につながり大変危険です。
- 本機のすべての部材は高圧力に耐える規格品を使用しておりますので、メーカー純正部品を使用してください。改造は絶対にしないでください。また、本機付属品は、磨耗や破損等が認められる場合には、直ちに当社販売店まで相談してください。

⚠警告

- 過労、病気、薬物の影響のある時、飲酒時、妊娠時は使用しないでください。
- ガン、ランスおよび吐出ホースなどの接続はゆるんだり、外れたりすることのないように確実に接続して下さい。
- 作業中は、高圧ホースを引っ張らないでください。
- 針金などを使ってガンのレバーを固定するようなことは絶対にしないで下さい。
- 高層建物でホースを垂直にはわす場合は、万一ホースの接続が外れても、ホースが落下しないように中間でホースを固定して下さい。

⚠注意

- 作業時は安全靴、ヘルメット、防護メガネ、防護服を着用してください。
- 作業中は、高圧洗浄機のまわりをよく見て安全を確認してください。
- 吐出された水を飲用などに用いないでください。
- 清水を使用してください。ゴミ等を吸いますと、故障の原因となり、本機の能力の低下および損傷につながりますので注意してください。
- 工業用水、井戸水、海水など不純物の混入した水を使用すると故障の原因になります。
- 本機使用の推奨温度は 0℃～40℃までです。吸水温度は最高 40℃までです。
- 圧力調整は指定圧力の範囲で調整を行ってください。上げ過ぎ、下げ過ぎ共に本機故障につながりますので注意してください。
- 冬期、凍結の恐れのある場合は必ず水抜きの作業を行ってください。ポンプが凍結しますと重大な故障の原因となります。0℃以下になる地域では原動機を始動させて高圧ポンプおよび配管ほか付属品に不凍液を吸水させて保管してください。
- 冬期、水抜きを忘れ、凍結をしていると思われるときは、ぬるま湯等で高圧ポンプおよび配管ほか付属品の氷を溶かしてからご使用ください。むりに原動機を起動させますと故障の原因となりますので注意してください。
- 空運転は絶対にしないでください。通常始動後約 10 秒程度で吸水をします。それ以上(最大１分間)たっても吸水しない場合は異常です。運転を中止して原因を調べてください。
- 本機の点検、整備、調整を行う場合必ず原動機を停止させ圧力を抜いた後に熱部の冷却等を確認し安全に作業を行ってください。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を故障する原因となります。
- 高圧ホースを 60m 以上延長する場合は、当社販売店までご相談ください。

⚠危険

- 排気ガス中毒に注意してください。
- 室内、トンネル内、船倉、タンク内、テント内など換気の悪い場所では使用しないでください。また、建物や遮へい物など風とおしの悪い場所では使用しないでください。
- 燃料タンクや送油管の接合部などから燃料もれが無いかよく確認してください。燃料もれは引火する危険があります。
- 燃料補給は、必ずエンジンを停止し十分冷やしてから行ってください。燃料は引火しやすいので運転中の補給は絶対しないでください。
- 給油時は火気を近づけないでください。
- 燃料は給油口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり、火災のおそれがあります。
- 燃料給油キャップは確実に閉めてください。もし燃料がこぼれた時は乾いた布で完全に拭き取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 運搬時には、燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがあるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせないでください。エンジンが過熱し本機が損傷するばかりでなく、火災のおそれがあります。
- 燃えやすいもの（わらくず、紙くずなど）や危険物（油脂類、シンナー、火薬など）の近くでは使用しないでください。
- バッテリーの周辺は換気を良くして、火気を近づけないようにしてください。運転中や充電中にはバッテリーから水素ガスが発生するので引火の危険があります。
- バッテリーの液面高さが下限レベル以下では使用や充電をしないでください。爆発のおそれがあります。
- バッテリーの電解液は強い酸性液で、皮膚、目などに付着すると大変危険です。
- 運転中および停止直後はマフラーや、マフラーカバー、エンジン本体およびその周辺は熱くなっていますから、手や肌が触れないようにしてください。
- 運転中は高圧線、点火プラグ、およびキャップ部に触れないでください。感電、漏電のおそれがあります。
- オイルの補給後は検油棒を確実に締めてください。熱いオイルが飛散する恐れがあります。
- 熱いエンジンオイルが体にかかるとヤケドする恐れがあります。十分注意してください。

⚠警告

- エアクリーナーのエレメントは必ず取り付けて始動、運転してください。逆火により炎がふき出すおそれがあります。
- 点検整備は、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。
- バッテリーケーブルを接続したままで電気系統を点検、整備すると誤ってショートさせ火災を起こす危険があります。作業前に必ずアースケーブル（－）の端子を外してから行ってください。

⚠注意

- 作業をしたままの状態で急にエンジンを止めると、マフラー内で未燃ガソリンに着火し、爆発音がでたり炎が噴出する場合があり危険です。しばらく無負荷運転してからエンジンを停止してください。
- 始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や損害物がないか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

本書とは別に原動機の取扱説明書が添付されていますので必ずそれもお読みください。

各部の名称

仕　　様

機種		高圧洗浄機 13/150G
コード No.		HD1315G
ポンプ	最大圧力	15MPa
	最大吐出水量	13L/min
	ポンプオイル量	0.4L
エンジン	型式	XTA13.14KSX
	排気量	196cc
	定格出力	3.7kW{5.0PS}/1800min^{-1}
	始動方式	リコイル
	オイル量	0.6L
	燃料タンク	3.6L
寸法	全長	639mm
	全幅	496mm
	全高	652mm
標準付属品	バリアブルガン	ランス 450mm　可変Φ1.2
	高圧ホース	3/8×20m
	吸水ホース	1/2×3m
	余水ホース	3/8×3m
	吸水ストレーナ	40 メッシュ

備考：性能向上、改善のため、上記仕様を予告なく変更させていただくことがありますのでご了承ください。

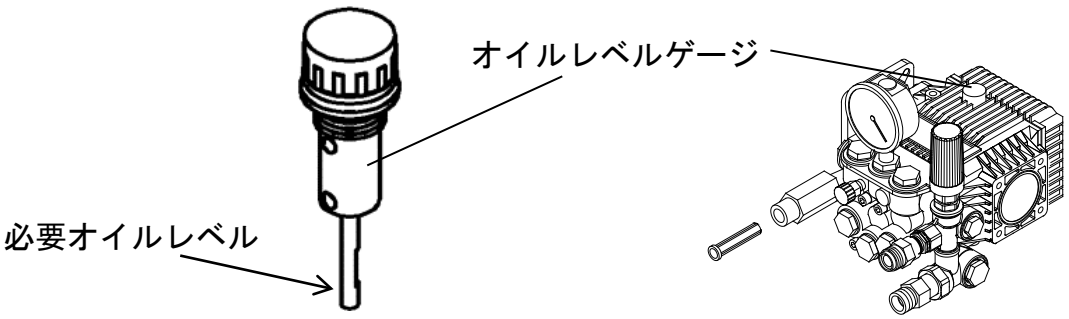
運転準備

●標準付属品の確認

標準付属品が全てそろっているか確認してください。
（7 ページの標準付属品の欄をご参照ください。）

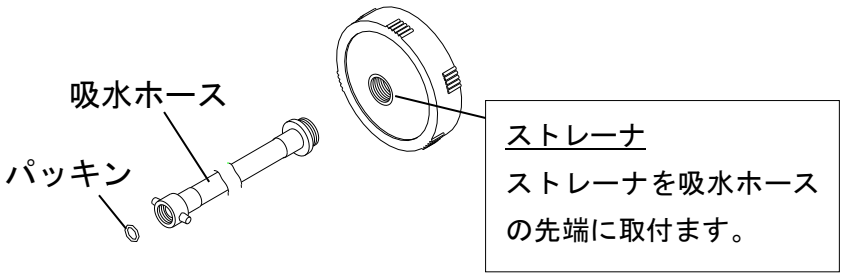
●潤滑油の確認

エンジン（エンジンの取扱説明書参照）およびポンプのオイルが必要量入っているかをオイルレベルゲージで確認してください。



●各種ホースの取付け方

吸水ホースを吸水口に、余水ホースを余水口に接続してください。その時、接続部にパッキンが入っていることを確認してください。
パッキンが脱落していたり破損していると、空気が混入し、ポンプが揚水しません。
また、吸水ストレーナは完全に水に沈め空気を吸わない様にしてください。次に高圧ホースを吐出口にしっかり接続し、もう片側を噴射ガンに取付けてください。



⚠注意
・本機を平行にセットし運転時の振動で移動しない様に車輪に歯止めをしてください。

⚠危険
・本機をハンドル部で吊り上げないでください。脱落の可能性があり大変危険です。
・ワンタッチカプラを接続したときは確実にロックしてください。不意に外れると高圧水が噴射する恐れがあります。

運転方法

●エンジンの始動はエンジン取扱説明書に従って行ってください。

●ポンプのエア抜き方法

この洗浄機には自動エア抜き装置がついていますのでエア抜きの必要はありません。エンジン始動後、噴射ガンのレバーを引いてノズルを開の状態にするとポンプ内およびホース内のエアが出てより早く作業にかかれます。この場合、エアが抜けると同時に超高圧水が勢いよく噴射します。危険ですのでしっかりと両手でガンを持ってください。

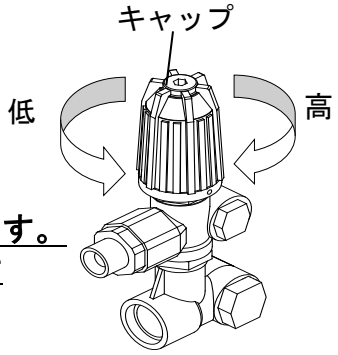
● 暖機運転（3～5 分程度）後、エンジン回転調整レバーを全開にし、ガンを洗浄する部分に向けてガンのトリガーを引きますと高圧水が噴射します。

⚠危険　ガンより水を噴射させる時は、両手でしっかりとガンを握り、人、動物、自分の体に絶対に向けないようにして下さい。大変危険です。

●圧力調整の仕方（アンローダーバルブ）

＜圧力を上げる→圧力調整バルブを右　（時計方向）に回す＞

＜圧力を下げる→圧力調整バルブを左（反時計方向）に回す＞

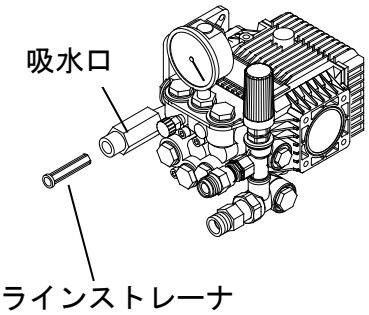


⚠警告　本機は出荷時に規定圧力に設定しています。規定圧力以上に圧力を上げますと機械の故障につながります。

⚠注意　圧力を下げすぎますと、圧力調整バルブのキャップが抜けますので注意してください。

●使用水は清水をご使用ください。また、水槽にゴミなどが混入しますと吸・排水弁にゴミが詰まり性能が発揮できなくなり、故障の原因となりますのでご注意ください。

ラインストレーナの点検

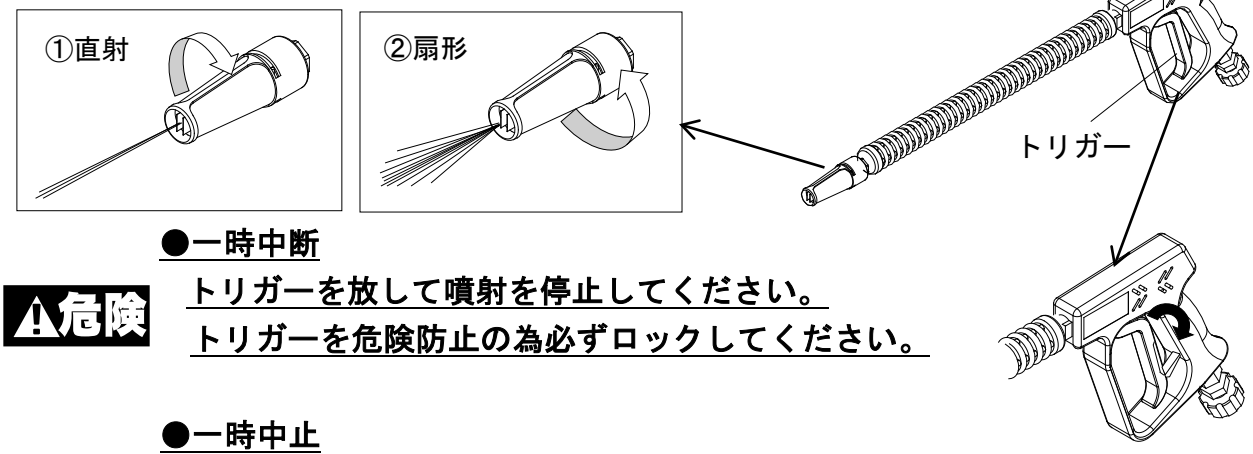


この洗浄機には吸水ホース用ストレーナの他にポンプの吸水口にラインストレーナを入れています。下記のような状態の場合は、ラインストレーナを掃除して下さい。

1. 全く水を吸わないかまたは、断続的に吸っている時。
2. 高圧ﾎｰｽが異常に脈動する。
3. 圧力が規定圧力まで上がらない時または、圧力が安定しない時。

噴射ガンの操作方法

噴射ガンの先端には可変ノズルが付いており、①直射(0 度)から②扇形（80 度）の範囲で自由に使用することができます。



●一時中断

危険

トリガーを放して噴射を停止してください。
トリガーを危険防止の為必ずロックしてください。

●一時中止

警告

5 分間以上噴射を停止する場合はエンジンのストップスイッチを OFF にしてください。この時高圧ホース内に圧力水が残っていますので必ず噴射ガンのトリガーを握り圧力水を抜いてください。

使用後の取扱い

注意

●水抜きの方法
まずエンジンを止めてガンのトリガーを握り残圧を抜き、噴射ガンより高圧ホースをはずし、吸水ホースのストレーナ部を水源より上げて空気を吸わせる状態にしてください。この状態でエンジンをアイドリング回転数で空運転させて高圧ポンプ､高圧ホース内の残水を除去してください。

注意

●水抜きは 30 秒程度で終わります。それ以上の空運転は高圧ポンプの故障の原因となりますので注意してください。

注意

●凍結のおそれのある場合は、必ず水抜きをしてください。
0℃以下になる地域では、不凍液をポンプに吸入させてください。

点検保守について

●高圧ポンプの潤滑油は 200 時間使用（初回は 50 時間)、または 90 日ごとに交換してください。10W-30 のエンジンオイルを使用してください。オイルレベルは常に点検して、減ったら注ぎ足してください。必要オイル量はＰ4、使用欄で確認してください。
●ガソリンエンジンの潤滑油の点検、交換はガソリンエンジン取扱説明書に従がって行ってください。
●高圧ホース、付属品等が磨耗、破損、水漏れがないか点検し、異常がある場合はただちに修理交換してください。

⚠危険 ●**本機の点検整備調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させ、圧力を抜いたのちに行ってください。**

定期点検項目

点検項目	時間（各時間ごとに実施）				
	作業前	50h	100h	200h	300h
【機体】					
各部の締付点検	○				
各部の水もれ点検	○				
各部のオイルもれ点検	○				
異常音、異常振動の点検	○				
ベースとカバー等の損傷、変形の点検	○				
防振ゴムの劣化、損傷、へたりの点検	○				
重要ラベル（ＰＬ）の剥がれ、汚れ、破れの点検	○				
【ホース】					
吸水、余水ホースおよびパッキンの点検	○				
ｽﾄﾚｰﾅｰ、ﾗｲﾝﾌｨﾙﾀｰ、ﾗｲﾝｽﾄﾚｰﾅｰの点検・清掃	○				
高圧ホース、カプラおよびパッキンの点検	○				
ガンの水もれ点検	○				
【配管】					
中間ホースの点検	○				
圧力計の点検	○				
自動エア抜き装置の点検					●
アンローダーの点検・清掃					●
【高圧ポンプ】					
オイルの点検	○				
オイルの交換		○（初回のみ）		○	
バルブの点検					●
シールの交換					●
プランジャーの点検					●

＊上記の時間は点検の目安であり耐久時間を示したものではありません。
＊使用条件によっては表記時間より早期の点検が必要となる場合があります。
＊●は技術や専用の工具を必要としますので、お買い上げ販売店にお申しつけください。

トラブル解消法

症状	原因	対策
水を全く吸わない	ポンプ内のバルブのこう着	バルブの掃除・点検
	ポンプが空気を吸っている	吸水ホースジョイント部分のOリング点検・交換
	吸込み揚程が高すぎる	揚程を規定値以内にする
	ストレーナの目詰まり	ストレーナの掃除
圧力が規定圧まで上がらない	ポンプが空気を吸っている	吸水ホースジョイント部分のOリング点検・交換
	ポンプのバルブにゴミが詰っている	バルブの掃除・交換
	ノズルの磨耗	ノズルの掃除・交換
	圧力調整バルブからの圧力漏れ	圧力調整バルブの分解整備必要に応じて部品の交換
圧力が安定しない	圧力調整バルブのゴミ詰まり、磨耗	圧力調整バルブの分解整備必要に応じて部品の交換
	ポンプ内のバルブの磨耗	バルブの交換
	ポンプ内のシール・パッキン磨耗・損傷	シール・パッキン交換

わからない事や、故障したら

●ご使用の高圧洗浄機についてわからない事や故障が生じた時に、次の事を御確認の上、販売店または、弊社までお問合わせください。

(1)型式名と機番　　(2)　ご使用状況(どんな時に)　　(3)　ご使用時間

(4) 故障状況(例：水を吸わない・圧力が上がらない・エンジンが始動しない)

お客様メモ

後日のために記入しておいてください。
お問い合わせや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号　：
購入年月日　：
お買い求めの販売店　：

Asada アサダ株式会社

本　社／名古屋市北区上飯田西町3-60　TEL(052)911-7165　E-mail:sales@asada.co.jp

支　店／東京・名古屋・大阪
営業所／札幌・仙台・さいたま・横浜
広島・福岡

www.asada.co.jp

海外事業所

アサダ・タイランド社	(バンコク)	アサダ・インド社	(ムンバイ)
台湾浅田股份有限公司	(台　北)	上海浅田進出口有限公司	(上　海)
アサダ・アーロンコ マシナリー社	(クアラルンプール)	アサダ USA	(オレゴン州・ユージン)
アサダ・ベトナム社	(ホーチミン)		

工　場

犬山工場	(愛知県・犬山市)
第一精工株式会社	(松　阪　市)
アサダ・マシナリー社	(バンコク)